

こどもの国の概要

都心から 30 キロ、多摩丘陵の雑木林をそのまま生かした自然の遊び場。広さ約 100 ㌖ (約 30 万坪)。外周道路 4 キロ、内周道路 2.4 キロをはじめ、雑木林をぬうように散策道路が通じている。遊具広場、芝生広場、ミニ SL、横浜一のローラー滑り台、湖、牧場、ミニアスレチック、せせらぎ、つり橋、サイクリングコース (1.6 キロ) などがあり、湖ではボート、ドラム缶いかだで遊べる。牧場には乳牛とヒツジが放牧され、ウサギなどを抱いてふれあう「こども動物園」があり、ポニー乗馬も楽しめる。しぼりたての牛乳を製品化した「特別牛乳サングリーン」、ソフトクリームが評判。

サッカー場、運動会用のグラウンド、自然研修センターの宿泊研修施設 (30 人以上の団体と野外活動訓練目的の団体)、予約で飯ごう炊事やバーベキューが楽しめる。大きな日よけのついた屋外プール、スケート場があり、遠足や写生会、自然観察、運動会、レクリエーション、オリエンテーリング、ハイキング、ジョギング、マラソンなど、四季を通じて楽しめる。家族連れや学校、会社、グループなど多くの人に利用されている。

春は花見、夏は木陰と水遊び、秋は紅葉狩り、冬はスケート、ジョギング。また、日曜祝日を中心として各種のイベントがあり、自然を素材とした教室や観察会も定期的に開かれる。

駐車場は 1,500 台収容。

休園日は毎週水曜日 (祝休日の場合は開園) と 12 月 31 日と 1 月 1 日。

1959 年 (昭和 34 年) 4 月の皇太子殿下 (現上皇陛下) のご結婚を記念して、全国から寄せられたお祝い金を基金に、65 年 (昭和 40 年) 5 月 5 日のこどもの日に開園した。旧日本軍田奈弾薬補給廠跡の国有地が米軍から返還されたのを受けて、国費をはじめ多くの民間団体・個人の協力で整備。次代を担うこどもの健全育成のための施設で、児童福祉法に基づく児童厚生施設である。81 年以前は特殊法人で運営し、以後は社会福祉法人。国からの運営補助はなく、独立採算で運営。67 年 (昭和 42 年) 4 月、こどもの国線が開通した。こどもの国線は 2000 年 (平成 12 年) 3 月 29 日から、横浜高速鉄道の一般路線となった。

◇ 運営主体 社会福祉法人こどもの国協会

◇ 所在地 〒227-0036 横浜市青葉区奈良町 700

☎045-961-2111 FAX045-962-1366

◇ 交通 東急田園都市線・JR 横浜線長津田駅乗り換えこどもの国線 7 分。小田急線鶴川駅下、こどもの国経由車奈良北団地行きバス 10 分。東名横浜町田 IC より国道 246、田奈経由こどもの国通り 30 分。横浜青葉 IC より上麻生線経由 20 分。世田谷通り鶴川駅東口信号より 10 分。

◇ 公式ホームページ <http://www.kodomonokuni.org/>

東京陸軍兵器補給廠田奈部隊・同填薬所

なぜ選ばれたか

- ① 相模原（陸軍）に近く、長津田駅から橋本経由で当時軍用線だった相模線を使えたこと。また、米軍が相模湾から上陸した場合、首都攻防戦の拠点となりうるため。
- ② 地表近くまで粘着性のある硬い岩盤があり、落盤の心配が少なく、完成後、内部で事故が起きても被害が最小限ですむこと。
- ③ 地形が細かい谷戸（低い丘陵と谷が入り組んだ地形）のため、防空上優れていたこと。

歴史

- 1938年 国家総動員法により住民の立ち退き。13軒の農家があった。
東京新橋の松村組が請け負い、最大1,000人が作業。
多くの朝鮮人（約9割）を半ば強制的に集めた。
- 敷地の西側が完成した1941年に部隊が発足。
- 終戦後の1946年2月、米軍が接収し弾薬庫として使用。
- 1960年3月、米軍の弾薬貯蔵庫が池子に移り、事実上閉鎖。61年に返還された。
- 長津田駅の北口、スーパーマルエツ周辺には日本木材兵器（木製の弾薬箱を製造）、日本紙工（弾薬の中の防湿筒の材料を製造）があった。
- 弾薬運搬線は1942年開通

部隊内には火工場（黒色火薬を袋詰め）、熔填場（白い粉火薬を溶かして弾頭に詰める）、穿孔場（信管を取り付ける穴を開ける）、完成場（弾頭と薬莖を合わせる）、33の半洞窟式弾薬貯蔵庫、空気に触れると爆発する火薬を保管する貯水池、陸軍兵器学校の分校があった。ここで作っていた砲弾は主に野戦砲、高射砲用。45年春頃からは地雷、手りゅう弾が多くなった。

正面入口を入ると右側に憲兵隊詰め所、女子学生休憩所があり、現在の多目的広場に本部があった。この本部の裏には、本土決戦を想定した地下指令所がある。サイクリング道路脇に入り口が少し出ている、入ると直線で6mくらいで左右に分かれている。左の通路には左右に小部屋が作られている。突き当たりは食堂脇トイレの裏に出ている。右の通路は15mほど行くと突き当たって、また左右に分かれているが、水没していて詳細は不明。

正面入り口広場は盛り土されているが昔は平たんで、引き込み線が中央広場まで入っていた。この西側に工場があり、組み立て、搬入、搬出が行われていた。1945年には引き込み線のプラットフォームで棒地雷が爆発し、6人が死亡。

園内駐車場には奈良橋から分かれた線路が入っていた。

弾薬庫は、丘の斜面を横から掘って平らにし、コンクリートで固めた後に土をかぶせた。

- 1943年、学徒戦時動員体制確立要綱、1944年1月、緊急学徒勤労働員方策要綱
当時は横浜2中（現翠嵐高校）4年生（15歳）250人、
神奈川高女（現神奈川学園）3・4年生（14・15歳）200人が労働。
労働には賃金が出て、月17円

- 44年11月30日、中学生を運んでいたトラックが住吉神社前で奈良川に転落。内6名が死亡。慰霊碑が住吉神社階段脇に建っている

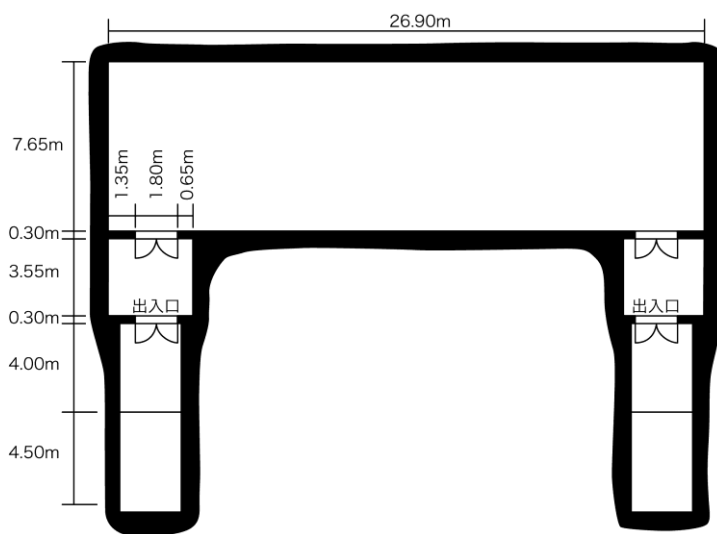
- 平和祈念碑は神奈川高等女学校の卒業生が作製

参考図書

神奈川のなかの朝鮮 明石書店
『神奈川のなかの朝鮮』編集委員会
田奈の森 近代文藝社 酒井智恵子

弾薬庫図

(上からの図)



(横からの図)

